

提訴に至った私の思い

令和5年5月23日



この度、弟の●●●●がファイザー社コロナワクチン接種をして死亡した事の責任を問う為に、国とファイザー社、蒲郡市、豊川市を提訴しましたことについてお話致します。

この事件の内容は、代理人弁護士に作成して頂いた訴状に書かれているとおりですが、私は、一人で生きてきた弟が、もっと生きて幸せを掴みたかった夢が、ワクチン接種によって潰れて死んでしまった事の無念さを痛切に感じています。そして弟を失った事を、心臓手術を控えていた重病の父に知らせては、余りにもショックが大きく手術前に悪影響が出てはいけないと思い、手術後に回復してから知らせようと思っていた所、弟の後を追うようにして父も亡くなってしまいました。父に息子の死を知らせてあげる事も出来ず、弟の無念さを父に知らせてあげる事も出来ず、弟の全てを父に知ってもらえなかった事になってしまい、父にも弟にも、申し訳ない気持ちで一杯です。

またその事に加えて、私たち遺族は、弟が亡くなった令和3年9月16日から11日後の9月27日に弟の自宅の家主の関係者から、弟が亡くなった事を知らされ驚き、翌28日豊川市役所保健福祉部福祉課保険係へ連絡すると「遺骨と本人の所持品を取りに来て下さい」と極めて事務的に言われた事に憤慨しながらもそれを堪えて弟が亡くなった事の簡単な説明、お金の請求（火葬料、遺骨の保管料）を遺族の気持ちも考えず淡々と言葉にする職員に腹立ちさを感じました。そして私は父の病院の主治医に相談をし、様子の良い時に愛知県に10月12日に豊川市役所へ弟の遺骨を引き取りに行く事にし、遺骨が東海典礼蒲郡西会館で保管されているとの事でしたのでそちらに向かうと、弟の小さな10cm程の骨壺、中には喉仏と僅かな骨と埋葬許可書が白い小さな紙袋に入れられた弟を見て、私は、涙が止まりませんでした。

翌令和3年10月13日菩提寺にて闘病中の実父に知らせずに、父に代わり、私の家族だけで葬儀を行いました。弟は、父の重病を知っており、私達家族に心配や迷惑をかけたくないと、一人で死と向き合い身体も心もとても苦しんだと思います。豊川市民病院で亡くなった事について私達遺族には闘病の弟の姿も何も連絡せず解剖検査など一切せずに火葬してしまったとの事でした。火葬した後に父の携帯に電話があったようですが、耳が不自由で具合が悪い父が電話に出る事は不可能です。文書で闘病の事を知らせて下されば、私達は弟の入院の経過を知る事や本人に寄り添い励ます事ができたと思います。とても悔しい思いと悲しい思いです。家族は大切な力だと思います。意識がなくても声を聞き取る事は出来ます。私達はその事にどうしても納得ができず、弟の死因などを知りたい為に蒲郡市市役所行政課ワクチン接種係(高橋氏)に接種場所、ワクチンの種類を聞きました。する

と、それは個人情報なのですぐには回答できないと言われた上、そのような事をあれこれ詮索をすると今後あなたにとって不都合な事になりますよと遠回しに脅されたのです。

さらには、弟には税金の滞納もあり借金も多いと聞いているので相続放棄をされた方がよいですよと言われて、私たちはそれを信じて父以外は弟の相続について全員が相続放棄をしてしまったのですが、後で考えると、私たちが相続人でないことになれば、これまでの違法な手続を隠蔽できると考えたのではないかと疑っています。

私が、弟の死と父の死のショックを引きずって立ち直りに時間がかかったのも、この脅しが頭に媚びりついていて、弟の事を調べる事があまり手に付かずに悶々として過ごしていました。弟の勤め先や知人に生前の様子などを聞いて回りました。弟は、何のためらいもなく、勤め先の人に明るい声でワクチン接種してくると言っていたらしく、その結果、高熱に苦しみ、呼吸困難に耐えながら死に向き合う事を思うと今まで以上に弟の無念さを感じました。

私が持ってきた写真は、豊川市民病院で死を覚悟した弟が最後の写真を残そうとして、自撮りをしたものです。

そして、弟が私達に心配をかけてはいけないとして、1人で闘病しながら、こんな写真まで残していた事を知れば知る程、弟の無念な思いが伝わってきました。

その為に私は決心しました。私はどんな不利益を受けても、このままでは弟も浮かばれないし、父にも申し訳がないと心に決めて放っておく事はできないと決意して、ワクチン問題に長く取り組んでこられた南出弁護士に今年の3月末に初めて面談して相談をさせて頂き今日迎える事になりました。

遺族の気持ちに寄り添う温かい心。大きな心で私達遺族に向き合う南出弁護士に心が救われました。そして私としては、ワクチン接種で亡くなった方の遺族やワクチンの後遺症で苦しんでいる方も驚く程多いので、いずれ誰かが訴訟を起こされると思い、私はそれに加わる事を考えて期待していましたが、遺族被害者だけを集めるだけで提訴する事をしないヤルヤル詐欺もどきの団体はあっても本格的にこれに取り組む事もなく、これ以上の期待ができない事から私だけでも訴訟を起こし、この訴訟をモデルケースとして全国の被害者が個々に立ち上がって頂きたいと決意してこの訴訟を起こした次第です。

父が生きていたら、弟の死を無駄にせずと多くの被害者と共に闘えと私に言ったはずで

す。
私にはその父の声が聞こえてきます。弟も同じ事を思っているはずで

す。ワクチンを打つ前の弟の最後の言葉はいつも・・・「姉ちゃん、おやじを頼むね」で命が尽きました。今回の私の提訴によって弟も父も、やっと納得してくれると信じています。

最後にワクチンにより後遺症に苦しんでおられる方々にお見舞いを申し上げますと共にコロナ感染、ワクチンによってお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。